

JFA Elite Programme

JFA Academy SAKAI



JFAアカデミー堺
2015



DREAM
夢があるから強くなる

公益財団法人 日本サッカー協会
JFAエリートプログラム



～世界のなでしこになる～

はじめに

私たちは、現代の日本であまり使用されることのない「エリート」という言葉を使っています。

私たちは、この言葉に対し、日本では強い抵抗感があると感じています。しかし、そこを敢えて使っているのです。

現在の抵抗感は、本来のこの言葉の持つ意味を離れたところで生じていると感じています。本来のエリートとは、決して特権階級を指すのではなく、先頭に立って社会に貢献する義務を負うリーダーを指しているのです。

また、日本の教育は戦後、大衆化、平等化の方向をとりました。これはある時期必要なことであったと思いますが、現在、社会的なリーダーの不在およびその育成の必要性がうたわれ始めており、国を挙げてエリート教育に取り組む国も出てきています。

ボトムアップとプルアップという言葉があります。ボトムアップとは、文字通り底上げです。プルアップとは、エリート教育の成果を還元し、社会全体を引き上げていくという考え方です。

私たち日本サッカー協会では、2005年1月1日に、『JFA2005年宣言』をし、「サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する」という理念を実現するために、2015年には、登録数500万人、世界でトップ10のチームになる、そして2050年までには日本でのワールドカップの開催と優勝、という明確な目標を設定しました。そしてそれは、単なる日本サッカー協会の目標としてではなく、日本全国の皆さんと双方向で交わされた約束という形で宣言されました。

そのために私たちは、ベースの水準の向上を重要視し、その方向に大いに取り組んできました。その成果はある程度あがってきたと考えています。そして今、新たに掲げた目標に向けて、さらに一步前に進むために、ベースの向上とエリート教育の両者を共存させていく必要性を痛感しています。

最近では、スポーツやその他の分野で、早期からプロ顔負けの厳しい取り組みをしている例を見ることがあります。

その活動の種類によってはそれが適切と認識されている場合もあるかもしれませんが、それに対して眉をひそめる方もいらっしゃるかと思います。その抵抗感を分析する必要があります。

私たちは、サッカーという競技の特徴を把握した上で、子どもの発育発達の特徴を研究し、「長期的視野に立った育成」という観点から、それぞれの年代ごとに重点的に取り組むべきこと、適した方法等について、検討を重ねてきました。サッカーについて、そしてサッカー以外の部分について、子どもの頃にこそ取り組ませたい大切なことがたくさんあるという認識に至りました。子どもは小さな大人ではありません。子どもにはそれぞれの年代で子どもに合った取り組みがあります。それを踏まえ、それぞれの年代で最適な環境・指導を与えることが重要です。

また、いわゆる「ぶつ切りの強化」、小学校、中学校、高校でそれぞれがばらばらにそれぞれの時点で完成されたチームをつくって勝とうとすることは、ともすれば、選手の長期的な育成の観点からは、弊害になる場合があります。せっかくのポテンシャルを生かしきれずに終わってしまう選手が実にたくさんいます。本来であれば皆が同じビジョン、コンセプトのもとで子どもがチームを移ろうとも長期的視野に立った育成がなされていけばいいはずですし、私たちは常にそれを目指していますが、それはなかなか簡単なことではありません。そこに一貫指導の意義があります。

私たちは、若年層の育成に長年にわたり積極的に取り組んできて、若年層であればあるほど、可能性を持ったタレントが実にたくさんいることに気づきました。その子どもたちに、是非とも良い環境と機会を与え、持ち合わせた可能性を開花させることができるようにすることが重要であると感じています。

エリートに対する抵抗感のもうひとつには、選ばれなかった者の抱く差別感があると思います。

子どもは時間をかけて、さまざまな刺激を受けて、個人によりさまざまなスピードで成長していきます。若年層でたとえ選ばれなかった子どもがいても、もちろんそれで終わりではありません。それがその子が将来大成しないという判定を下すことでは決してありません。その中からも将来の日本を担う人材が育つと考えています。また、若年層で選ばれた子どもが、将来を保証されたわけでもありません。このプログラムに選ばれたからといって、全員がプロになれるわけではありません。このことは、本人も周囲の大人も、必ず理解していただきたいと思います。だからこそ私たちは、サッカー以外の面でも世界に通用する人材となるようなプログラムを組み込んでいこうと考えています。

また、プルアップの考え方で、一部のレベルを上げることによって、周囲のレベル、全体のレベルを引き上げることが可能であると考えています。それによって、ベースを含めたサッカー界全体の幅と厚みが広がり、それが単に直接的な意味だけではなく、世界トップ10を目指す日本代表の活躍につながる大きな力となることを、大いに期待しています。

子どもが育っていく上で、それぞれ重要な若年層のある一時期において、良い環境と良い指導を与える機会をつくりたいと考えています。そのことを是非ともご理解いただきたいと、強く願っています。

JFAアカデミー堺

なでしこ vision

日本女子サッカーの発展のために、そして「JFAの理念、ビジョン、約束」を実現するために、「世界のなでしこになる。」というビジョンのもと、女子サッカーに関わるすべての人々が共有し、遂行する、3つの目標を定める。

1. サッカーを日本女性のメジャースポーツにする。
2. なでしこジャパンを世界のトップクラスにする
3. 世界基準の「個」を育成する。



目的

「世界トップ10を目指した個の育成」

「世界基準」をキーワードとし、あくまでも個の育成を目的とします。

ロジック形式による教育により、能力の高い者に良い指導、良い環境を与え、長期的視野に立ち、集中的に育成します。

また、サッカーはもちろん、人間的な面の教育も重視し、社会をリードしていける真の世界基準の人材、常に（どんなときでも、日本でも海外でも）ポジティブな態度で何事にも臨み、自信に満ち溢れた立ち居振る舞いのできる人間の育成を目的とします。

才能を持つだけでは、必ずしも開花するとは限りません。才能を持つ者に良い環境を与え、本人の努力を伴わせることにより、世界に通用する選手を育成します。

フィロソフィー

常に（どんなときでも、日本でも海外でも）ポジティブな態度で何事にも臨み、自信に満ち溢れた立ち居振る舞いのできる人間を育成する。

指導・サポートに関して

(1) サッカーの面に関して

能力の高い選手に、良い環境で集中的に良い指導を与え、個の能力を高めます。寄宿生活の中で、最高のトレーニング環境を与えます。試合も重要な機会であり、公式試合活動に関しては、アカデミーではなく個々にチームに所属し、週末にはそのチームで試合の経験を積みみます。

(2) サポート、環境面に関して

日本サッカー協会技術委員会、女子委員会、スポーツ医学委員会等と協同し、メディカル、栄養、フィジカル等のサポート体制にて、より良い成長を促していきます。

中学生年代は心理的に不安定な時期にあたりますが、適切なサポートや刺激を与えることでドロップアウトを防ぐよう、対応を行います。

(3) 教育面に関して

サッカーばかりではなく、人間的な教育や論理的思考、ロジカルコミュニケーションスキル、外国語等の総合的教育を行い、リーダー教育を重視します。また、代表（リーダー）としての自覚を促す教育も行ないます。

将来、日本をリードする人材となる真の意味での「エリート」を育成します。

トレーニング環境

ピッチ

J-GREEN堺(堺市立サッカー・ナショナルトレーニングセンター)の施設を利用して、活動が行われます。

指導体制

JFAアカデミー堺専任のコーチ・ゴールキーパーコーチが、日常の指導にあたります。また、アスレティックトレーナーや総務・選手管理、スクールアドバイザー等のスタッフも含めて、生活面の指導も行い、ピッチ内・外ともスポーツ選手にふさわしい生活を身につけさせていきます。

また、なでしこジャパン（日本女子代表）及び各年代（U-20・U-17）日本女子代表のコーチングスタッフやナショナルトレセンコーチ[女子担当]、技術委員会委員、女子委員会委員等が全面的に協力し、指導していきます。

スタッフ体制 ※2014年4月末現在

- スクールマスター
川淵 三郎 /JFA最高顧問
- JFAアカデミー女子統括ダイレクター
今泉 守正 /JFAアカデミー福島女子スクールマスター
- チーフコーチ
丸山 明
- コーチ
三輪 由衣
- GKコーチ
西入 俊浩 /JFAナショナルトレセンコーチ[女子GK担当]
- アシスタントコーチ
平井 佑果
- 総務兼選手管理
藤井 頌子
- アスレティックトレーナー
中堀 千香子
- スクールアドバイザー
金坂 正廣 / (一社)大阪府サッカー協会女子委員長

活動

(1)生活に関して：ロジング(寄宿制)+週末帰省

J-GREEN堺内の宿泊施設[DREAM CAMP]に寄宿し、サッカーのトレーニングや総合的教育を行います。最適な日課の中で、トレーニングや食事、休養、必要な学習を実施することで、効果的な育成を行います。週末は自宅に帰省します。毎週末無理なく帰宅できる範囲からの子どもを対象としています。

- J-GREEN堺内の宿泊施設[DREAM CAMP]の施設の一部を、JFAアカデミー堺の寮として占有利用します。
- 寮は、共同生活の場として、コミュニケーション、交流、教育、学習、教養を行う場として捉えています。
- 家族(家庭)が特に必要な年代に親元を離れることとなりますが、毎週末帰宅し家庭生活に戻ることにしています。
- ウィークデーをはじめとした生活全体の問題に関しては、学校とも連携を図りながらサポートを行います。アカデミースタッフ、学校、地域で協力しながら十分なケアをすると共に、保護者との連絡を密に取り合い協同しながら、選手一人ひとりにアプローチします。
- 病気や怪我等が生じた場合は、アカデミーメディカルスタッフを中心となり、地元医療機関及びスポーツ医学委員会との連携により、十分な医療体制をとります。
- 夜間もアカデミースタッフが寮に同宿し、寄宿生活に関して責任を持って対応します。



(2)学校に関して

居住地の学区にある公立中学校・堺市立月州中学校に通学し、学校生活を送ります。サッカーのプログラムばかりでなく、中学生にふさわしい学校生活・社会生活を大いに重視しながら、勉強面での指導も十分に行います。



J-GREEN堺内宿泊施設[DREAM CAMP]



堺市立月州中学校

(3)学校以外の教育に関して：JFAプログラム

真のエリートとして社会をリードする人材を育成するため、JFAプログラムとして学校のカリキュラムとは別に、寮生活の中でさまざまなプログラムや日常的な働きかけを行います。

特に、ロジカルコミュニケーションスキルの習得、語学、リーダー教育を重視します。また、スポーツ選手としてのパフォーマンスを高め発揮するために送るべき生活態度についても、学習し実践していきます。



(4)チーム活動に関して

JFAアカデミー堺では、個の能力を高めるためのトレーニングを徹底して行いますが、チーム登録をし、そのチームとしての公式試合活動は行いません(但し、トレーニングの一環として、トレーニングゲームを行うことはあります)。各自が個々にチームに所属し、毎週末(帰宅時)にはそのチームでトレーニングや試合等の活動を行います。

～在校生の所属チーム～

- [愛知県] FCホッツ(3種)
- [三重県] 伊賀フットボールクラブくノ一サテライト、楠クラブレディース
- [岐阜県] 岐阜女子FCフェニックス
- [滋賀県] おおつヴィクトリーズサッカークラブ、オールサウス山石SC(3種)
- [大阪府] FCヴィトリア、大阪桐蔭アスリートクラブフラインゴフットボールクラブU-15、セレッソ大阪堺ガールズ、セレッソ大阪堺レディース、高槻フットボールクラブジュニアユース(3種)
- [兵庫県] INAC神戸レオネッサB、INAC神戸レオネッサU-15、CALDIO Football Club(3種)、FC Terra
- [徳島県] プルミエール徳島サッカークラブ(3種)、徳島レディース
- [岡山県] FFCウェネス、岡山湯郷Belle U-15・U-18

(順不同)

(5)社会生活に関して

親元を離れて寄宿生活を行い、地元(堺市)の公立校に通うという生活を送るに当たり、サッカーの仲間ばかりのサッカーの生活のみにする事は、この年代の子ども達にあるべき姿ではないと考えます。

学校での様々な活動はもちろん、地元(堺市)、堺市教育委員会や一般社団法人大阪府サッカー協会等と協力しながら、地元や社会との交流を重視していきます。

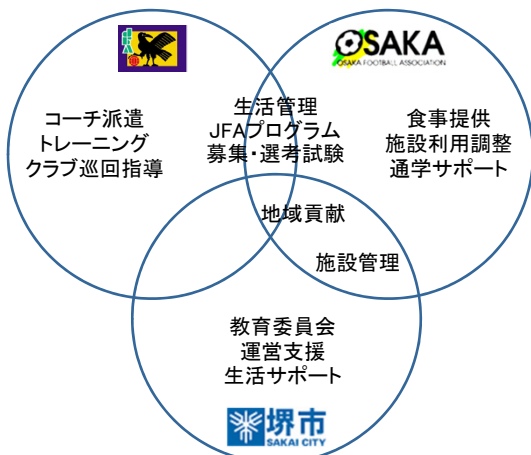
堺市及び大阪府サッカー協会との協力

堺市が「サッカーをはじめとする市民のスポーツ・レクリエーション活動の推進を図り、市民の健康及び体力の増進に資すると共に、日本代表チームの練習誘致や全国大会開催を通じて、スポーツ交流の拠点をつくり形成することで『スポーツタウン堺』を国内外に広く情報発信すること」を目的として、2010年4月に「堺市立サッカー・ナショナルトレーニングセンター（愛称：J-GREEN堺）」を開設しました。

また、同施設がスポーツ交流の拠点としての機能を更に強化するため、利便性向上等の観点から、堺市並びに一般社団法人大阪府サッカー協会が連携し、同施設内に於いて宿泊施設の整備を進め、2012年4月に「DREAM CAMP」が開設され、JFAアカデミー堺はその一部を寮として占用利用します。

JFAが「JFA2005年宣言」で示した理念やビジョンのもと、JFAがこれまでJFAアカデミー福島やJFAアカデミー熊本宇城を通じて推し進めている若年層育成のフィロソフィーや方法を発信することや、ハード・ソフトの両面で地域のスポーツの発展・寄与することについて、堺市並びに一般社団法人大阪府サッカー協会がこれらに賛同し、継続的に協力・連携していくことから、JFAアカデミー堺の開校に至りました。

JFAアカデミー堺が、これからの日本を代表するエリートを育成する機関としてだけでなく、更には堺市が策定している「堺市マスタープラン」で示されている「未来を拓く人材をはぐくむ教育環境の充実」を実践する場としても、推進していくことが重要です。



トレーニングコンセプト

～世界基準の個の育成～

個性を輝かせるための基本となるテクニックの質を高め、サッカーの原理原則を理解し、習慣化し、仲間との関わりを高め、質を高めていきます。

JFAがこの年代でこそ身につけて欲しいと考えること【動きながらの技術、動きの習慣化、観る、判断する、持久力等】の向上と質の追及を目指します。

JFAアカデミーはチームを強化することが目的ではありませんので、JFAアカデミー堺としての公式試合活動は行いません。（チーム登録も行いません。但し、トレーニングの一環として、トレーニングゲームは実施します。）



進路

JFAアカデミー堺は、中学校3年間のプログラムです。3年間で、様々な理由によりアカデミーでの活動の継続が困難になる場合も想定されます。その場合は個々のケースに応じて、選手本人にとって最も良い方法を、本人や家族、所属クラブ、学校等と協議・検討し、判断していきます。

高校への進学、クラブの決定についても、本人や家族、所属クラブ、学校等と協議し、本人にとって最も良い選択を共に行っていきます。



年間費用

費目	納入期	初年度	2年目以降
入校手続き金		150,000円 (分納/12月&3月)	—
活動費 (住居費、食費・水道光熱費等)		月額80,000円	月額80,000円
合計(年間)		1,110,000円	960,000円

サッカーの活動に係る費用（トレーニング用品やシューズは支給。限度数有り）やJFAが行うカリキュラムに係る費用はアカデミーが負担します。

公立中学校に係る経費や帰宅費用（週末や長期休暇）は本人負担となります。

(参考) 中学校 ・年間経費 約140,000円
(文科省「子どもの学習費調査」より)
・制服等 約48,000円

活動費の減免に関して

入学者の家庭の経済的状況や事情の変化により、アカデミーに支払う活動費に対する救済（減免）を行う場合があります。



基本スケジュール

	6:00	7:00	8:00	9:00 ~ 15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00
月曜	起床	朝食	登校	学校	学校	下校		夕食	JFAアカデミープログラム	学習		消灯
火曜～木曜	起床	朝食	登校	学校	学校	下校	トレーニング		夕食	学習/JFAアカデミープログラム		消灯
金曜	起床	朝食	登校	学校	学校	下校	トレーニング	軽食	帰省～			
土曜												
日曜									～帰寮			消灯

- 月曜日から金曜日は地元の公立中学校(堺市立月州中学校)に通い、下校後J-GREEN堺のピッチでトレーニングを行います。
- 金曜日(又は祝日の前日)のトレーニング終了後に帰省(帰宅)し、週末は所属チームでの活動や家庭での生活を送ります。
- 日曜日の夜(18時～20時)に、アカデミーに帰寮します。

Q&A

Q. JFAエリートプログラムはサッカーだけをするところなのですか？

A. いいえ、ちがいます。エリート本来の意味は、先頭に立って社会に貢献する人であると私たちは考えています。もちろんサッカーを通して人々に感動を与え、夢を与えることができる、そういう選手を目指してほしいと思います。ただ、そういう選手になりたいのなら、人間的にも優れたものでなければ社会全体のバックアップは得られません。私たちは学校の授業、勉強はもちろん、その他の社会的活動にも積極的に取り組むよう、指導していきます。

Q. 勉強の方はどんなふうになるのですか？

A. 地元の公立中学校(堺市立月州中学校)に通います。寄宿生活の中でも、学習サポートも取り入れ、勉強はしっかりと行います。教育委員会と中学校の協力によって、より最適な時間帯でトレーニングが送れるよう、部分的に調整が行われています。



Q. 年間の費用はどれくらいかかりますか？その中には何が含まれるのですか？

A. JFAアカデミー堺のかかる費用は入校手続き金15万円(初年度のみ)と活動費8万円(月々)となります。この経費は主に月々の住居費、食費、水道光熱費です。日常のサッカーの活動に係る費用やJFAカリキュラムに係る費用は全額JFAアカデミーが負担します。

家庭の経済状況や突発的な事象により家庭の経済的事情が変化した場合等を考慮して、活動費に対する救済(減免)を行う場合があります。

Q. どのようなところに住むのですか？

A. 堺市立サッカー・ナショナルトレーニングセンター内に開設された「DREAM CAMP」を利用します。私達は個室は考えていません(選手は4人部屋)。さまざまな環境に耐える力、適応する力、社会性を養うことを目標としています。学校の勉強やサッカーのトレーニングだけが教育とは思っていません。あえてこのロジック制度を始めたのは、共同生活をする中に教育のチャンスがあると思ったからです。

Q. 皆、なでしこジャパン(日本女子代表選手)になれるのですか？

A. 私たちは、質の高いトレーニングと、質の高い指導者をそろえ、そしてトレーニング施設に関しても、日本や世界でも有数の環境をつくっていきたくと考えています。こういう集団の中で、トップトップの日本代表や世界でプレーできるような選手をめざして我々も指導していきます。全員が将来のなでしこジャパンとしてサッカーで活躍することを望みますが、必ずしも全員がそうなれるとは保証できません。私たちは、ここで学んだ生徒たちが、なでしこジャパンやなでしこリーグで活動が出来る選手になることはもちろんですが、どのような分野でも活躍できるように育成していきたくと考えています。



Q. 親元を離れることが心配なのですか？

A. この年代はもちろん、家庭が非常に重要であり、家族との関係は不可欠と考えています。毎週末帰宅しますし、必要に応じてはご家族のほうから訪問していただく機会も設けます。

担当の指導者、スタッフ全員が、全力で子ども達のケアにあたります。常に担当の指導者が、学校や家庭と密に連絡をとっていきます。ご心配であれば、いつでもご相談ください。



なでしこ vision
世界のなでしこになる。

日本女子サッカーの発展のために、
そして「JFAの理念、ビジョン、約束」を実現するために、
「世界のなでしこになる。」というビジョンのもと、
女子サッカーに関わるすべての人々が共有し、遂行する、3つの目標を定める。

1. サッカーを日本女性のメジャースポーツにする。

- ◆ サッカーを気軽に楽しめ、選手・指導者・審判など、生涯かわり続けられる環境をつくる。
- ◆ 少女・女性もするスポーツ、そしてみんなから愛される・応援されるスポーツとして女子サッカーの認知度を上げる。
- ◆ 近い将来、FIFA女子ワールドカップを日本で開催する。

2015年、女子のプレーヤーを300,000人にする。

2. なでしこジャパンを世界のトップクラスにする。

- ◆ U-20/U-17ワールドカップに出場。ひとつでも多くの試合を経験し、メダルを目指す。
- ◆ ワールドカップ/オリンピックに出場し、メダルを獲得する。

2015年、FIFA女子ワールドカップで優勝する。

3. 世界基準の「個」を育成する。

- ◆ なでしこジャパンにつながる、タレントの発掘・育成システムを充実させる。
- ◆ 女子に携わる指導者のレベルアップを図る。

そして、「なでしこ」らしく…。

「なでしこ」らしい選手 = 日本女子サッカー選手の姿、目指す姿

「なでしこ」らしさとは

ひたむき 芯が強い 明るい 礼儀正しい

「なでしこ」らしい選手になろう！ 「なでしこ」らしい選手を育てよう！



【お問い合わせ先】 公益財団法人日本サッカー協会 JFAアカデミー事務局
〒113-8311 東京都文京区サッカー通り JFAハウス
TEL. 03-3830-1890/FAX. 03-3830-1814
(祝祭日を除く月曜～金曜 10:00～17:00)